

「広島平和の旅」報告集発行にあたって

西東京市は、合併と時を同じくして、平成 13 年 1 月 21 日に「西東京市平和推進に関する条例」を制定しました。翌年の平成 14 年 1 月 21 日には、「非核・平和都市宣言」を行い、毎年 4 月 12 日の「西東京市平和の日」を始めとするさまざまな機会に、戦争体験を風化させないよう次世代に継承する取組みや、平和の意義を考えていく事業を行っています。

被爆都市へ市民を派遣する事業は、平和事業の推進・啓発活動の一環として、平成 13 年度から実施しています。

広島・長崎への原爆投下、そして終戦から 71 年が経過し、戦争を知る世代が少なくなり、戦争の記憶が薄れようとしています。

今年は 8 人の市民の方々が広島を訪れ、平和記念式典への参列をはじめ、原爆ドームや平和記念資料館の見学、被爆体験者の講話などをおして、原爆や戦争がもたらす悲惨さや平和の大切さ、命の尊さについて理解を深め、また、この時期に広島を訪れることの意味を改めて考えるなど、多くの体験を持ち帰りました。

この報告集は、旅の様子や参加者の皆さんが得たことを多くの方に共有していただけるようまとめたものです。この報告集が、平和を考えるきっかけになれば幸いです。

平成 28 年 8 月

西東京市

平和宣言

1945年8月6日午前8時15分。澄みきった青空を切り裂き、かつて人類が経験したことのない「絶対悪」が広島に放たれ、一瞬のうちに街を焼き尽くしました。朝鮮半島や、中国、東南アジアの人々、米軍の捕虜などを含め、子どもからお年寄りまで罪もない人々を殺りくし、その年の暮れまでに14万もの尊い命を奪いました。

辛うじて生き延びた人々も、放射線の障害に苦しみ、就職や結婚の差別に遭(あ)い、心身に負った深い傷は今なお消えることはありません。破壊し尽くされた広島は美しく平和な街として生まれ変わりましたが、あの日、「絶対悪」に奪い去られた川辺の景色や暮らし、歴史と共に育まれた伝統文化は、二度と戻ることはないのです。

当時17歳の男性は「真っ黒の焼死体が道路を塞(ふさ)ぎ、異臭が鼻を衝(つ)き、見渡す限り火の海の広島は生き地獄でした。」と語ります。当時18歳の女性は「私は血だらけになり、周りには背中が足まで垂れ下がった人や、水を求めて泣き叫ぶ人がいました。」と振り返ります。

あれから71年、依然として世界には、あの惨禍をもたらした原子爆弾の威力をはるかに上回り、地球そのものを破壊しかねない1万5千発を超える核兵器が存在します。核戦争や核爆発に至りかねない数多くの事件や事故が明らかになり、テロリストによる使用も懸念されています。

私たちは、この現実を前にしたとき、生き地獄だと語った男性の「これからの世界人類は、命を尊び平和で幸福な人生を送るため、皆で助け合っていきましょう。」という呼び掛け、そして、血だらけになった女性の「与えられた命を全うするため、次の世代の人々は、皆で核兵器はいらないと叫んでください。」との訴えを受け止め、更なる行動を起こさなければなりません。そして、多様な価値観を認め合いながら、「共に生きる」世界を目指し努力を重ねなければなりません。

今年5月、原爆投下国の現職大統領として初めて広島を訪問したオバマ大統領は、「私自身の国と同様、核を保有する国々は、恐怖の論理から逃れ、核兵器のない世界を追求する勇気を持たなければならない。」と訴えました。それは、被爆者の「こんな思いを他の誰にもさせてはならない」という心からの叫びを受け止め、今なお存在し続ける核兵器の廃絶に立ち向かう「情熱」を、米国をはじめ世界の人々に示すものでした。そして、あの「絶対悪」を許さないというヒロシマの思いがオバマ大統領に届いたことの証でした。

今こそ、私たちは、非人道性の極みである「絶対悪」をこの世から消し去る道筋をつけるためにヒロシマの思いを基に、「情熱」を持って「連帯」し、行動を起こすべきではないでしょうか。今年、G7の外相が初めて広島に集い、核兵器を持つ国、持たない国という立場を超えて世界の為政者に広島・長崎訪問を呼び掛け、包括的核実験禁止条約の早期発効や核

不拡散条約に基づく核軍縮交渉義務を果たすことを求める宣言を発表しました。これは、正に「連帯」に向けた一歩です。

為政者には、こうした「連帯」をより強固なものとし、信頼と対話による安全保障の仕組みづくりに、「情熱」を持って臨んでもらわなければなりません。そのため、各国の為政者に、改めて被爆地を訪問するよう要請します。その訪問は、オバマ大統領が広島で示したように、必ずや、被爆の実相を心に刻み、被爆者の痛みや悲しみを共有した上での決意表明につながるものと確信しています。

被爆者の平均年齢は80歳を超え、自らの体験を生々の声で語る時間は少なくなっています。未来に向けて被爆者の思いや言葉を伝え、広めていくには、若い世代の皆さんの力も必要です。世界の7千を超える都市で構成する平和首長会議は、世界の各地域では20を超えるリーダー都市が、また、世界規模では広島・長崎が中心となって、若者の交流を促進します。そして、若い世代が核兵器廃絶に立ち向かうための思いを共有し、具体的な行動を開始できるようにしていきます。

この広島で「核兵器のない世界を必ず実現する」との決意を表明した安倍首相には、オバマ大統領と共にリーダーシップを発揮することを期待します。核兵器のない世界は、日本国憲法が掲げる崇高な平和主義を体現する世界でもあり、その実現を確実なものとするためには核兵器禁止の法的枠組みが不可欠となります。また、日本政府には、平均年齢が80歳を超えた被爆者をはじめ、放射線の影響により心身に苦しみを抱える多くの人々の苦悩に寄り添い、その支援策を充実するとともに、「黒い雨降雨地域」を拡大するよう強く求めます。

私たちは、本日、思いを新たに、原爆犠牲者の御霊に心からの哀悼の誠を捧げ、被爆地長崎と手を携え、世界の人々と共に、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けて力を尽くすことを誓います。

平成28年（2016年）8月6日

広島市長 松井 一實

平和への誓い

「人が焼けるにおいがした」

「ある者は、肌が溶けて人間には見えなかった」

原子爆弾が落とされた広島の様子を、語り部の方は語ってくれました。

思い出したくない、胸が張り裂けそうだ。

被爆された人の辛さは、いつまでも、いつまでも終わることはありません。

被爆者の思いや被爆の事実を自らの体験のように、想像するのです。

聞きたくても、聞くことができなくなる日が近づいています。

一瞬で街がつぶれ、日常や夢を踏みにじられた

昭和20年（1945年）8月6日 午前8時15分の出来事を、

私たちは、もっと、知りたいのです。

もっと、伝えたいのです。

悲しみや苦しみを乗り越えた人々の努力によって、

広島は青く澄んだ空の下、色とりどりの花が咲く街に復興しました。

この広島に、今年も、世界各地から、多くの人々が訪れています。

あの日の事実を知るために、平和記念公園を巡り、平和記念資料館を見学し、

語り部の方の話を聴き、原子爆弾の恐ろしさを実感しています。

そして、「あの日の出来事を伝える」と約束してくれた人たち、

平和の広がりを感じました。

私たちは、待っているだけではいけないのです。

誰が、平和な世界にするのでしょうか。

夢や希望にあふれた未来は、

ぼくたち、わたしたち、一人一人が創るのです。

私たちには、被爆者から託された声を伝える責任があります。

一人一人が、自分の言葉で、丁寧に、

戦争を知らない人へ 次の世代へ 世界の人々へ

命の尊さを 平和への願いを

私たちが語り伝えていきます。

平成28年(2016年)8月6日

こども代表 広島市立竹屋小学校 6年 中奥 垂穂
広島市立亀山小学校 6年 青木 優太

参加者・旅程・事前学習会・旅先での様子

参加者

OS・Yさん ○松浦 華子さん ○伊藤 信子さん ○大山 安男さん
OK・Yさん ○松浦 竜斗さん ○伊藤 和奏さん ○羽広 旺子さん

計8人

旅程

○1日目 8月5日(金)

時間	内容
10:10	東京駅より新幹線で福山へ
13:44	福山駅到着
14:00	福山市人権平和資料館見学

○2日目 8月6日(土)

時間	内容
8:00	平和記念式典参列
9:15	広島平和記念資料館見学、献花
10:30	爆心地見学
11:00	被爆体験者による講話
12:15	袋町小学校見学
15:00	広島駅より東京へ
19:03	東京駅到着・解散

事前学習会

7月25日(月) 午後2時～

広島平和の旅が、より意義深いものになるように、事前学習会を行いました。

事前学習会では、旅の主旨、行程、報告会などについての説明に加え、「非核・平和をすすめる西東京市民の会」会長の鈴木さんと事務局長の藤川さんを講師に招き、広島と長崎に落とされた原爆のことや、原爆の子の像のモデルになった佐々木禎子さんと、西東京市民であった大倉記代さんとの友情などについて話していただきました。

参加者の方々は、この事前学習会により、「広島平和の旅」の趣旨や目的への理解をよりいっそう深めたようでした。

旅先での様子

8月5日は、福山市にある福山市人権平和資料館を見学しました。色濃く残る部落差別に関する資料の展示をはじめ、福山市も空襲に遭い、354人もの人々が犠牲になったことや、当時の戦時下のくらしの様子について学びました。翌6日は、平和記念式典に参列しました。91カ国もの国の代表が参列し、一般の方々の中にも、多くの外国の方が参列していました。式典では、原爆が投下された午前8時15分に平和への祈りと被爆者への慰霊の念を込めて、参列者一同が

黙とうを捧げました。「平和宣言」では、今年5月に現職の米大統領として初めて広島を訪問したオバマ大統領の演説について触れ、また各国が連帯して核兵器のない世界を目指すことを要請しました。こども代表による「平和への誓い」では、被爆者から体験を聞いたことがきっかけで、核兵器の恐ろしさ、命の尊さ、そして平和への願いを継承していくことを誓いました。



式典後、平和記念資料館を見学しました。オバマ大統領の広島訪問のためか、館内は非常に混雑しており、展示物をじっくりと見ることはできませんでしたが、原爆の恐ろしさが滲み出ている遺品や資料から、戦争そして原爆による被害の様子を学びました。平和記念資料館で見たこと、そして式典で発せられた平和への想いと決意のメッセージを受け止めながら、全ての犠牲となった方々のご冥福と、平和への願いを込めて慰霊碑に献花しました。

その後、爆心地を見学し、原爆被害者福祉センター広島平和会館で、「広島県被団協・被爆を語り継ぐ会」の桑本勝子さんの話を伺いました。姉と過ごした疎開先での生活のこと、原爆投下前日から原爆投下直後数日間にかけてご自身が体験したことや、爆心地近くの自宅で被爆した母の壮絶な被爆体験など、何度も涙ぐみながらお話いただきました。

桑本さんのお話から、資料だけでは知りえない戦時下の生活や被爆した人々の様子について、いっそう理解を深めることができました。

最後に爆心地から460mの位置で被爆した袋町小学校平和記念資料館を見学しました。かろうじて焼け残った校舎の一部を被爆者の救護所として利用された校舎の壁面には、被爆者の消息などを知らせる「伝言」が数多く記され、現在も残っています。壁面に記されていた名前などを解析し、そこに隠されていた人々の物語を紹介したビデオや、展示されている資料から、改めて原爆が奪い去っていった一人ひとりの人生の尊さについて考えさせられる機会となりました。

厳しい暑さと行程の中、参加者の熱意と協力によって、被爆した人々の心の痛みや平和への祈りに触れた、福山、広島を巡る2日間の全行程を終えることができました。

被爆体験者による講話

講師 桑本 勝子さん

日時 平成28年8月6日(土) 午前11時～午後12時

講師の桑本さんは、71年前、6歳の時に疎開先で被爆しました。母は爆心地からほど近くの自宅に残り、姉と2人で親戚の家に疎開していた時のことでした。

「疎開先では、ひとつ屋根の下に4世帯の人々が共に生活をしており、食料も底を尽きかけている状況下で、皆の精神状態は不安定になり、常に緊張感が漂っていた。心の余裕もみるみる消えてゆき、私たちが食料を盗んだと、身に覚えのないことでいつも周りから責め立てられていた。」

8月5日の夕方、桑本さん姉妹は広島市内の実家へ戻り、「爆弾でいつ死んでも構わないからここで母と暮らしたい」と泣きながら母に訴えた。その様子を見ていた近所の母親達が、「もしも爆撃に遭ったら、あなた達のお母さんはあなた達を抱えて逃げることはできない。良い子だからそんなこと言わず、今日は田舎に帰りなさい。」と慰め、2人にたくさんの桃を渡した。広島に原爆が落とされたのは、その翌日のことだった。「もしあの時、周囲の大人達の励ましにより疎開先へ戻っていなければ私達も母と共に被爆していただろう。」

原爆が投下された翌日、叔父が母を探しに行ってくれたのだが、その時広島市内は炎に包まれており、とても探せる状況ではなかった。母を探しに広島市内に入れたのは、原爆が投下された3日後のことだった。幸い母は、ガラスの破片が腕に数箇所刺さっている程度の外傷で済んだのだが、後遺症として癌が全身に転移し、苦しみながらの生活を送ったのだった。

当時、原爆の存在を知っていたのは物理に詳しい一部の人のみで、被爆した人々のほとんどは、原爆のことを知らず「ピカドン」と言っていた。そのような原爆について知識もない中で、放射線による後遺症が身体にあらわれても、結核などと誤って認識され、適切な治療を受けられる人はいなかった。母もその1人だった。

参加者たちは、実際に戦争を体験した人でないと語れない、戦争で亡くなっていった人々の想い、被爆後も襲ってくる身体と精神の苦しみを感じているようでした。



主な見学先ガイド

●福山市人権平和資料館

福山市に色濃く残る部落差別などといった人権問題に関する資料や、昭和 20 年（1945 年）8月8日の福山空襲の実相と、戦時下のくらしの様子に関する資料を紹介しています。

【HP <http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/soshiki/jinkenheiwa/>】



●平和記念公園

戦後、世界の恒久平和の願いを込めて、この記念公園が建設されました。公園内には、平和記念資料館、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館などの施設や、原爆死没者慰霊碑をはじめとするモニュメントがあります。



●広島平和記念資料館

原爆の被害の実態を伝える資料を収集・展示し、広島で起こったこと、平和の尊さと核兵器の脅威を紹介しています。

【HP <http://www.pcf.city.hiroshima.jp/>】



●原爆ドーム …世界遺産

チェコの建設家ヤン・レツルの設計により、大正4年（1915年）に開館したこの建物は、被爆前は「広島県産業奨励館」でした。原爆は、ここから南東160mの上空約580mで炸裂し、建物は廃墟の残骸となりました。平成8年（1996年）、ユネスコの世界遺産に登録されました。

【HP <http://www.city.hiroshima.lg.jp/www/dome/index.html>】



●原爆死没者慰霊碑

(公式名：広島平和都市記念碑)

平和記念公園のほぼ中央にあるこの慰霊碑は、原爆犠牲者の霊を雨露から守る願いを込めて、家型ハニワに設計されました。石室には、原爆死没者名簿が納められています。



●原爆の子の像

この像は、原爆性白血病により 12 歳で亡くなった佐々木禎子さんの霊を慰め、世界平和をよびかけるため、昭和 33 年（1958 年）に建設されました。たくさんの千羽鶴が捧げられています。



●広島市立袋町小学校平和資料館

(被爆建物)

爆心地から 460m の位置にあり、原爆によって大きな被害を受けました。平成 14 年（2002 年）に被爆した西校舎の一部が平和資料館として保存され、貴重な被爆資料を展示するとともに、被爆後の学校の様子を紹介しています。



【HP <http://www.fukuromachi-e.edu.city.hiroshima.jp/shiryoukan-index.htm>】

平和記念公園・周辺ガイドMAP



- | | | | |
|--------------------|----------------------|------------------------|---------------------|
| 1 世界の子ども平和像 | 18 韓国人原爆犠牲者慰霊碑 | 35 ノーマン・カズンズ氏記念碑 | 51 平和の灯 |
| 2 鈴木三重吉文学碑 | 19 被爆した墓石(慈仙寺跡の墓石) | 36 朝鮮民主主義人民共和国帰国記念時計 | 52 祈りの像 |
| 3 旧相生橋碑 | 20 平和の泉 | 37 平和記念ポスト | 53 平和の池 |
| 4 中国四国土木出身所職員殉職碑 | 21 平和乃観音像 | 38 平和の塔 | 54 旧天神町北組慰霊碑 |
| 5 広島県地方木材統制(株)慰霊碑 | 22 常夜燈 | 39 嵐の中の母子像 | 55 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 |
| 6 原爆ドーム | 23 義勇隊の碑 | 40 祈りの泉 | 56 レストハウス(観光案内所・売店) |
| 7 原民喜詩碑(佐藤春夫の詩碑の記) | 24 広島二中原爆慰霊碑 | 41 平和記念資料館(本館) | 57 広島郵便局職員殉職碑 |
| 8 勤員学徒慰霊塔 | 25 広島国際会議場 | 42 平和記念資料館(東館) | 58 平和祈念碑 |
| 9 広島市道路元標 | 26 広島市商・造船工業学校慰霊碑 | (資料館東館内)ローマ法王平和アピール碑 | 59 原爆犠牲建設労働者・職人之碑 |
| 10 花時計 | 27 慈母の像 | 43 被爆したアオギリ | 60 「平和の祈り」句碑 |
| 11 原爆の子の像 | 28 原爆犠牲性国民学校教師と子どもの碑 | 44 全損保の碑 | 61 原爆犠牲ヒロシマの碑 |
| 12 平和の石塚 | 29 平和の像(若葉)湯川秀樹歌碑 | 45 峠三吉詩碑 | 62 石炭関係原爆殉難者慰霊碑 |
| 13 平和の時計塔 | 30 友愛碑 | 46 被爆したハマユウ | 63 広島瓦斯(株)原爆犠牲者追憶之碑 |
| 14 遭難犠牲者慰霊供養塔 | 31 平和の門 | 47 材木町跡碑 | 64 広島県農業会原爆物故者慰霊碑 |
| 15 原爆供養塔 | 32 旧天神町南組慰霊碑 | 48 原爆死没者慰霊碑(広島平和都市記念碑) | 65 毛髪碑 |
| 16 平和の鐘 | 33 広島市立高女原爆慰霊碑 | 49 平和祈念像(草野心平の詩碑) | 66 被爆勤員学徒慰霊慈母観音像 |
| 17 平和の石燈 | 34 マルセル・シュノー博士記念碑 | 50 菩提樹の碑 | |

観光のお問い合わせ: 広島市観光案内所 電話:082-247-6738 / ファクス:082-247-6917 www.hiroshima-navi.or.jp